

【別紙様式2】

令和7年度北区立滝野川小学校 学校関係者評価報告書

令和8年2月26日

学校関係者評価委員会 委員長 湊 恵理子

1 学校関係者評価委員会の構成

- ・湊 恵理子 前スクールコーディネーター、前わくわく滝野川ひろば実行委員長
- ・渋谷 昭仁 青少年西ヶ原東地区委員会 会長
- ・橋本 雅美 西ヶ原地区主任児童委員、わくわく滝野川ひろば実行委員長
- ・関口 修司 日本新聞協会 NIE コーディネーター 本校第18代校長
- ・石川 千世 石川幼稚園 園長
- ・柳沼 智宏 田端児童館 館長
- ・橋本 修一 前PTA会長
- ・山口 智治 PTA会長

2 学校関係者評価委員会の主な活動

- 令和7年6月21日 第1回学校評議員会
  - ・学校経営方針について（校長）
  - ・北区基礎基本の定着度調査の結果について（校長）
  - ・年間行事について（教務主幹）
  - ・意見交換
- 令和7年11月29日 第2回学校評議員会
  - ・音楽鑑賞
  - ・1学期及び2学期前期の教育活動について（教務、生活、学校経営より）
  - ・意見交換
- 令和8年1月17日 第3回学校評議員会
  - ・学校経営報告
  - ・学校評価アンケート（児童、保護者、教員）の結果について
  - ・意見交換
- 令和7年4月～令和8年3月
  - ・学校公開参観
  - ・道徳授業地区公開講座参観（12月13日）
  - ・各学校行事参観（入学式、運動会、音楽会等）

3 学校関係者評価の結果と分析（8名回答）

（評価の段階 Aあてはまる B少しあてはまる Cあまりあてはまらない Dあてはまらない Eわからない）

No.	評価項目（人）	A	B	C	D	E
1	学校生活	8	0	0	0	0
2	児童の学力	6	2	0	0	0
3	学習指導	5	1	0	0	2
4	算数習熟度別指導	5	1	0	0	2
5	研究内容	3	4	0	0	1
6	きたコンの活用	3	5	0	0	0
7	教科担任	4	1	0	0	3

【別紙様式2】

8	あいさつ	0	5	0	0	3
9	集団規律	4	4	0	0	0
10	特別活動	5	2	0	0	1
11	健康教育	4	3	0	0	1
12	心の教育	5	2	0	0	1
13	読書指導	5	2	0	0	1
14	安全指導	8	0	0	0	0
15	環境	5	3	0	0	0
16	教育相談	4	3	0	0	1
17	いじめへの対応	7	0	0	0	1
18	特別支援教育	4	2	0	0	2
19	保護者との連携	4	3	0	0	1
20	開かれた学校	8	0	0	0	0
21	教育活動全般	8	0	0	0	0

- ・各設問において概ね肯定的な回答を得たが、「わからない」という回答も多かったことから、評議員会に限らず、様々な機会に評価を得られる場面を設定する必要がある。
- ・ICTの活用については「あてはまる」よりも「少しあてはまる」の回答が多いことから、推進委員を中心に学習の中での効果的な実践事例を示していく。
- ・あいさつについては「あてはまる」の回答が0であり、昨年度と比較しても評価が下がっていることから、校内に限らず校外でも気持ちのよい挨拶が実践できるよう指導する。

#### 4 改善の方策についての意見

- ・あいさつを気持ちよくできなくなるのは、発達段階によるものなのか。少し残念。
- ・週に1回リサイクルボックスを出す際に地域に立っていると、元気にあいさつできている子とそうでない子がいる。
- ・丁寧で工夫された授業に努めていることに敬意を表す。さらに面白い授業、生き生きと活動する授業を目指してほしい。
- ・教員が意識を高く持ちながら個々の指導力を上げようと工夫している様子が分かる。
- ・本校におかれては引き続き、子どもの安心・安全を最優先に取り組んでいただきたい。
- ・子どもに加え教職員も含めた学校全体として、幸福の実現を目指していく姿勢に期待している。
- ・地域との関わりについて、町探検や事業所訪問等の機会をより一層充実させていただきたい。また、保護者が関わる機会を増やすことも検討してほしい。多様な職業に就く保護者の力をキャリア教育等で活かすことで、子どもの学びがより広がる可能性があると考えます。
- ・きたコンをととてもよく使っていた。しかし教室が少し暗いように感じた。
- ・わくわくや学童クラブでは、弁当を食べる姿勢や食べ方、時間も気になる。
- ・先日音楽会の練習を参観させていただいた。幼稚園の教員にとっても音楽専科の指導を見てよく学んでいた。学校の様々な取組から学ぶことが多い。
- ・生成AIの使い方についての明確な基準をもったうえで活用すべき。特支の子には合っているが、文章を書ける子にとってはあまりよくないのではないか。
- ・若手のOJTの取り組みはとてもよい。
- ・専科の教員の副担任もとてもよい取組。学級経営に関わるのもとても大切。
- ・探究的な学びはとても難しい。日本全体の課題でもある。小学校でどこまでねらうのか、小学生としての学びの形をつくってほしい。個別最適な学びが個別勝手な学びにならないようにしてほしい。
- ・2年生の町探検に保護者が協力するなど、地域に開かれた学校に向けた取り組みはとても効果があると思った。